

「法政らしさ」をふまえて考える、将来、「なりたい」私

・法政らしさとは「活発で自由な発想を持ち、積極的に行動する人物が多くいる」ということだと私は思います。また主体性を尊重する精神が強いと感じました。これらをふまえて考えた「将来なりたい自己像＝私」は、個性を持ち、いろいろな分野で積極的に行動し、自分の意見をはっきり言える人物、確固たるアイデンティティをもった人物になりたいと思います。法政学への招待でのグループディスカッションを通して、私がとても驚いたことは、自分の考えや主張をその場でまとめて簡潔に自分の言葉でみんなの前で表すことができる人物が男女・学年を問わず多かったことです。全体での発表の時も、メモに頼らず臨機応変に対応できる姿勢はすばらしいと感じました。意見を主張せず周りに賛同し、人前で話すことを苦手とする若者が多い中、マニュアルに頼らずに自己を表現できる人物が多いということはやはり法政の学生の特長であり、誇りだと思います。私もこのような人たちに学び、自己を成長させていきたいと思います。【経営・1年】

・法政人らしさといえば「自由と進歩」が前面に出ます。自ら発想し、積極的に取り組んでいく姿勢が法政の学生らしさです。私は「常識を常に疑い、批判的に視るために必要な知識を積極的に身に着ける」、このような自己像を将来にわたって実現していきたいです。このような姿勢は学問をする上でも必要になりますし、新たな自分の興味、関心の幅を広げることに繋がります。法政大学には図書館や各種研究期間等々、自分の知識を高められる施設、ツールが満ちあふれているので、それらを私なりに有効活用し、得られた情報をしっかりとマネジメントし、将来の自己実現に繋げていきたいです。私が4年後に卒業する際には「法政大学生でよかった！！」と思えるようなキャンパスライフを過ごしていきたいと思います。【文・1年】

・「法政らしさ」「法政人の精神」をふまえた将来像について考えてみると、かねてから思い描いていた自分のありたいと思う姿にとっても強くリンクしている。まず1つ目は「固定観念や既成概念にとらわれず物事を柔軟に考え、かつさまざまな多様性、アイデンティティを認める」というものである。自由な発想こそ知識集約型になっている日本社会が進歩するために必要なことだと思っているからである。2つ目は「つねに明るく人に優しく、元気である」ということである。対人関係等のコミュニケーションを重視している私は、誰に対しても平等に、誰とでも気さくに話がしたいと思っている。授業でもあった「法政の学生の特徴」をリベラルなこの法政大学で育み、自分自身を進歩させたいと思う。

【法・3年】

・これまでの授業を通して学んだことで一番印象に残った「法政らしさ」とは、「自由」と「進歩」ということでした。僕が思うに、この言葉に含まれる意味は「自由」な発想や「自由」な行動を通して現代社会に貢献し、新たに道を切り開いていくことだと思います。僕は高校時代、先生のいうことにただ従っていただけで大学に入ってやるべきことがなくなってしまいました。しかしこの「法政学への招待」の授業で「法政らしさ」「法政の精神」を学んだことによって、今とるべき行動や将来像を保つことができました。それは人に言われたことにただ従うのではなく、自ら自由に考えて現代社会に役立つような進歩的なものを作り出すことです。【法・1年】

・私は、この「法政学への招待」という授業を通し、「法政らしさ」「法政人の精神」が、偉大な人間ではなくとも自分の確固とした意志や良心を持ち、社会に一木一石を加えること、進取・独立の気象を持つ人間であると理解しました。以上のことをふまえ、私は社会の一員として、自分自身の意志を持ち、行動できる人間になりたいと思います。私は将来、マスコミ関係への就職を希望しています。多くの情報に溢れ、情報に左右される仕事だと思いますが、その中でも自分の考えをしっかりと持ち、異論を唱えられるような人間になりたいと思います。【文・2年】

・この授業を通し一番印象に残ったのは、法政の学生の力です。そして大きな愛校心を感じました。自由や青年日本の代表というフレーズに反映されるように、法政では何を始めるにもまず学生がきっかけを作り主体として動いていると思います。最終回の「10年以内に法政大学に実現してほしいこと」プレゼンテーションの時に「今でもその校風は受け継がれているのだ」と強く感じました。先輩たちが真剣に、前向きに法政と向き合っていたり、今の私には思いも届かないアイデアがたくさん出てきているのを目の当たりにして、法政に入学してはじめて「自分は法政の学生だ」ということを実感した気がします。そして先輩たちだけでなく、毎回講義を行ってくださった先生方からも強く愛校心を感じました。この授業をきっかけにこの環境の中で社会と積極的に関わっていける人間になりたいと思うことができました。【経営・1年】

・私の将来こうありたいと思う自己像は、自分から何かを発信し、伝えていけるようなアクティブな人間だ。法政の先人たちは新しいことを常に求め、時代の流れを作る一翼を担ってきた。そんな人たちは、今の私たちの多くに欠けている積極的な姿勢を持っていたはずだ。それは時にはよくないと捉えられる場面もあるが、図々しいくらいの積極性を持った方がよいのではないか。気持ち一つで変えられるような目標かも知れないが、今の私にはそれが難しく、これから時間をかけても手にしたい自分の未来像である。

【キャリアデザイン・2年】

・この授業を通して考えた「法政らしさ」「法政人の精神」といえば、やはり「自由」であると思う。それをふまえて私は「将来なりたい自己像」として「自分で考え、率先して行動でき、かつその行動に責任が持てる人物」を掲げたい。自由とは、その通り、制約がないことを意味する。だから可能性は無限大に広がる。しかし一方で、すべての責任は自分が背負うことになる。そのとき責任がとれない人ばかりになると、自由そのものが規制されてしまうだろう。よって私は、自由のよい面として枠にとらわれない中で、自ら多面的に物事を考え、物事がより良い方向に進んでいくように、率先して何かを始める人間になりたい。現段階では考える過程には至るものの、実践できずにいるからである。そしてもちろん、1人の人間として、自分の行動にはきちんと責任をとれる人間でありたい。そして常に謙虚かつ素直でありたいと思う。おごりや自己満足から改革は生まれない。ノンエリートの魂が創り出した法政人の精神を汲むからこそ、柔軟に物事に対応していける人間になれたらな……と残りわずかであるが、大学生活のうちに少しでも実現できれば、と思う。【人現環境・3年】

・法政の精神である「自由と進歩」、また講義の中で学んだ野上豊一郎さんの妻である野上弥生子さんの言葉「女性である前に人間であれ」という言葉が大変心に響きました。その言葉、精神の通り、女性であっても自立して社会を引っばっていけるような存在になりたいと思います。世間の不平等や道理にそぐわないことなど、自らは是正する、社会を変えるというような姿勢で、社会に貢献できたらと思います。【国際文化・3年】

・私は「開発」のできる人間になりたい。はじめに途上国における社会起業家である。この社会起業家というのは途上国で開発されていないこと、たとえば教育・政治体制・インフラ整備・衛生などの多種多様な分野を開発していく業種である（略）この分野は法政の校歌に「進取の気象」「質実の風」とあるように、新しいことに向けて自主的に動き、地道に努力していくことに似ていると考えている。（略）法政らしく、気取らず、地道に努力のできる人、けしてお金では動かない人、そんな人に私はなりたい。（略）【人間環境・2年】